

第63号 令和3年9月1日	<h1 style="font-size: 2em;">みちびき</h1> <p>【関市少年センターだより】</p>	発行 関市協働推進部 生涯学習課 関市少年センター 電話 (0575) 23-7777
-------------------------	------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------

令和3年度 第1回関市少年センター運営委員会及び 第1回関市少年補導員連絡協議会は 書面表決にて実施

令和3年度第1回少年センター運営委員会及び第1回少年補導員連絡協議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面での開催とし、送付した議案については書面表決によって承認されました。

関市少年センター運営委員は、一部の方が交代されましたので下記のとおりご紹介いたします。また関市少年補導員連絡協議会の委員についても、本部役員と新規委員のみなさんをご紹介いたします。

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、夏まつりや花火大会など予定されていた多くのイベントが中止になりました。少年補導活動につきましても感染防止に伴う対応が求められ、現在は一部の活動を自粛しておりますが、補導員一人一人が感染リスクを自覚して、対人距離（ソーシャルディスタンス）を保ちながら、少年補導活動を進めていきたいと思っています。

◎少年センター運営委員のご紹介(敬称略) <>内は選出団体等

委員長	三島 篤	<補導員連絡協議会>	委員	井森 一夫	<補導員連絡協議会>
副委員長	清水 宗夫	<青少年健全育成協議会>	委員	沼田 明仁	<補導員連絡協議会>
委員	中嶋 亘	<自治会連合会>	委員	打田 芳久	<補導員連絡協議会>
委員	広瀬 武男	<事業所>	委員	江崎 義彦	<関警察署生活安全課長>
委員	酒井 能道	<民生児童委員>	委員	山田 茂樹	<教育委員会学校教育課長>
委員	古田 敦資	<PTA連合会>	委員	栗山 大	<小学校生徒指導主事>
委員	渡邊 千尋	<補導員連絡協議会>	委員	野口 隼人	<中学校生徒指導主事>
委員	小澤 外美	<補導員連絡協議会>	委員	井川 茂雄	<高等学校生徒指導主事>
委員	谷尾 勝之	<補導員連絡協議会>			

◎少年補導員連絡協議会本部役員及び新規委員のご紹介(敬称略) <>内は選出支部等

会長	三島 篤	<旭ヶ丘支部長>	新規委員	伊佐地智和	<富岡副支部長>
副会長	渡邊 千尋	<板取支部長>	新規委員	山田怜生奈	<下有知支部長>
副会長	小澤 外美	<西部支部長>	新規委員	後藤 貴広	<富野支部長>
書記	谷尾 勝之	<田原支部長>	新規委員	青木麻莉子	<富野副支部長>
会計	井森 一夫	<倉知支部長>	新規委員	平下 直樹	<武芸川支部長>
監事	沼田 明仁	<南ヶ丘支部長>	新規委員	坪井 政和	<武芸川副支部長>
監事	打田 芳久	<武儀支部長>	新規委員	佐藤 彰	<富野小PTA>
新規委員	筒井 祥宏	<富岡支部長>	新規委員	古川 雅志	<緑ヶ丘中PTA>

※ 役員の皆様、よろしくお願ひします。

関市・小中高生のきまり



- 外出帰宅時間は・・・小学生・中学生は日没、高校生は午後10時までです。
- ゲームセンターへは・・・小学生・中学生のみで立ち入ってはいけません。
- パチンコ店へは・・・小学生・中学生・高校生は立ち入ってはいけません。
※保護者同伴でも禁止されています。

(関地区小中高生徒指導共通指導項目より抜粋)

子どもが発するサインを見逃さないで

教育熱心な親ほど子どものサインに気づかない

「うちの子は、そんなことをするような子じゃないと思っていました」「なぜこんなことをしたのか、まったくわかりません」子どもによる事件が起こるたびに、親のこんな言葉が聞かれます。特に、重大事件となるほど、「うちの子がなぜ？」といった声が多いようです。

おそらく親にしてみたら、しっかりわが子のことを見て育てていたつもりなのに、という気持ちなのだと思います。むしろ、教育熱心だったり、自分の子は人並み以上にすぐれていると思っていたケースが多く、その“熱心さ”が、子どもの現状とずれていることがあります。

子どもは、さまざまなサインを出しているのに、親はひたすら進路のことだけしか頭にないということもあります。ありのままの姿の子どもではなく、親の「こうあってほしい」という思いばかりが優先されそのことで子どもはプレッシャーを感じ非行に走っているのに、親は気づかないという構図です。

人は自分の見たいものだけを見る傾向があります。しかし、子育てや人間関係において大切なのは、自分の見たいものを見るのではなく、相手のありのままの姿に目を向け、それを受けとめてあげることです。

先入観や期待はいったん頭の外に追い出して、いつも新たな、とらわれない目で、わが子を見てあげてください。そうしたら、子どもが何を求めているのか、なぜ困っているのかが見えてくるはずです。親は、子どものいちばんの観察者になることが大切です。

こんな小さな変化にSOSが隠れているかもしれない

では、どういうところに気をつけたらよいのでしょうか。

子どもの変化、問題の芽は、日々いろいろなところにあらわれるものです。心の変化は、態度や表情、身だしなみの変化となってあらわれます。気をつけるべきサインを、ざっとあげてみましょう。

お子さんに、こんな変化はありませんか？

- 帰るのが遅くなった
- 遅刻するようになった
- 些細なことでも反発するようになった
- 家族といっしょにいる時間を嫌がるようになった
- 化粧をするようになった
- 表情が険しくなった
- 言葉づかいがきつくなった
- 口をきかなくなった
- 急にふさぎこむようになった
- イライラしていることが多い
- インターネットやメールばかりしている
- ブランド品など高価な物を持っている
- 学校に行きたがらない
- 部屋にこもるようになった
- きょうだいに激しく当たるようになった
- 無気力になった



子どもにこんな変化があったからといって、すべてが危ないわけでも、非行に走るわけでもありませんが、こうした変化からはじまることも事実ですので、まずは日頃から子どもの気持ちを尊重しながら、本音で話ができる親子関係をつくっておくことが大切です。